

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	高齢者の「居場所と出番」119推進事業
事業主体 (連絡先)	NPO法人ホットラインながの 長野市西三木2184-1, JR三木駅前会館
事業区分	保健・医療・福祉の充実 安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト ②人生ニモ作社会の推進
総事業費	389,768 円 (うち支援金: 311,000 円)

事業内容

垂れ幕やチラシのPR 宣伝効果は多少あったが、長野市のインストラクター養成の具体化遅れで、自主研修会は2回のみ、延べ20名参加で終わった。

居場所づくりの健康麻雀は毎週木曜日に4名～9名、マレットゴルフは2名～6名、山菜農園・里山づくりは随時5名～6名で開始した。

生活上の困りごとは、草取り・庭木の手入・玄関雪かき・ゴミ出し等で50～60宅へ支援した。

子供たちの居場所づくりは、夏のカブトムシの展示と即売のみで、深い対応は先送りとなった。



【自主研修会。】

【目標・ねらい】

- ① 高齢者の日時的居場所づくり。
- ② 高齢者・障がい者の生活支援。
- ③ 高齢者と子供たちとの交流。
- ④ 高齢者の健康とこずかい稼ぎ。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

居場所づくり：部屋代・光熱費の負担に耐え得る対策が必要となる。(自力では困難)

生活支援：困りごとは突発的にも起こるので、即応体制が必要とは常々思っていたが、カギを無くして家に入れない、車上の雪で通院買物が困ったの出動では、涙を流して喜んで頂けた。

スタッフ養成：意欲的な有償ボランティアの養成が必要ではあるが、なんとか満足して頂いている。

※自己評価【B】

【理由】

生活支援と介護予防の面では進みはじめたが、居場所づくりの面では、子供たちへの呼び込みが遅れた。次年度へ。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

子供たちとの居場所づくりとマッチングさせながら、高齢者の健康づくりと心身のための元気づくりが進むよう配慮しながら、困りごとの多い高齢者や障がい者のために、地域包括ケアシステムと呼ばれる、何時なんどきでも何でもやれるような力(支援ネットワーク)を、地域に根付けして行きたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
- 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある